

総合計画審議会 各分科会におけるご意見・ご提案に対する検討・対応状況について

資料No.3-1

【第1分科会】

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容	
1	共通	共通	47・48	各論の構成	芹澤委員	現状と課題、基本方針、施策の番号それぞれ対応してつながっているが、項目ごとに記載が分かれているため、これらをトピックのように1つにまとめ、グラフを関連内容として示すような構成への変更は可能であるか。	修正	「各論の見方」において、「現状と課題」「基本方針」「施策」へのつながりを説明する文章を追記。	
2					石川委員	「各論の見方」で「現状と課題」「基本方針」「施策」へのつながりを説明する文章などが入るとわかりやすい。			
3				-	施策	芹澤委員	他の施策などと関連がある施策について、注を付け関連ページなどを記載したらどうか。	参考	各取組にはいろいろな側面がある中で、関連の深さは様々であるが、それぞれの側面に関連する取組があることから、1つの取組について関連施策が複数考えられる。このため、全ての関連付けを注釈で説明することは難しい。各分野の個別の計画では、そうした関連性も読み取れるため、総合計画としては、そこまでの表記することは考えていない。
4						小林委員	専門分野のような内容があるため、主な構成事業についての場所などに、QRコードをつけるなどして、わかりやすくしてはどうか。	参考	施策に記載されている文章が構成事業の大まかな事業内容となり、詳細な事業内容は毎年度作成する実施計画で記している。各事業について一つひとつを説明するウェブページは無いことから、個別の事業については、毎年度の実施計画を参照していただきたい。

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容
5	基本目標1	1 危機管理	49	基本方針3	高澤委員	「富士山噴火」という言葉を基本方針にも入れてはどうか。	参考	「現状と課題」、「基本方針」では、大規模自然災害や災害との言葉で広く記載したいため、現状のままとする。
6			施策1	50	遠藤委員	外国人人口の増加に対応する施策は何か。	参考	外国人に対する防災啓発については、「政策分野4 市民活躍」に記載しており、やさしい日本語の活用や多文化共生を担う人材との連携などにより進めていく、という考えから「政策分野1 危機管理」では市民全体を対象に広く記載する。
7					高澤委員	「自主防災会役員」という言葉を入れて、民間と一緒にやっていくという部分を強く出してはどうか。	修正	「自主防災会長や地域防災指導員など」に修正。
8			施策2	遠藤委員	「排水設備の事故を～計画を作成します。」とあるが、今期は計画を作成して終わりという意味に捉えられるのではないか。	修正	本取組は削除し、1つ目の取組を「主要河川や水路及び雨水渠等の整備や維持管理を推進するとともに～」と修正し、本取組を包含することとする。	
9			施策3	桜井委員	「富士山噴火」について、情報提供システムや防災指導員と協力した啓発などの施策を記載したらどうか。	参考	具体的な取組としては、まずは県が広域避難計画を作成し、これを踏まえ市の計画を更新することとなる。避難計画においては、これまでどおり警戒レベルに応じて段階的に避難することを想定しているので、今後の業務を進める上での参考にさせていただく。	
10		2 消防・救急・救助	51	グラフ	遠藤委員	「出火率」のグラフの年が間違えている。	修正	記載誤りを修正。
11					海野委員	「救急出場件数」のグラフについて比較対象がないのでわかりにくい。	修正	普通救命講習の写真へ変更。
12					遠藤委員	「救急出場件数」のグラフに比較対象を掲載しているが、その意図は。	修正	普通救命講習の写真へ変更。

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容
13	基本目標1	2 消防・救急・救助	51	グラフ	芹澤委員	「出火率」のグラフは全国に比べて少ないということを見せているのか。	参考	全国平均よりも低い出火率であり、消防力は高いが、消防力の強化や火災予防の促進に取り組み火災による被害を最小限に抑える必要があると考えている。
14					芹澤委員	「救急出場件数」のグラフでR1からR2にかけて減っているのがよいことなのか、悪いことなのか、これを使って何を説明したいのか。	修正	普通救命講習の写真へ変更。
15			-	グラフ	芹澤委員	グラフと文章の関連を示すようなデザインにはどうか。	参考	参考とさせていただきます。
16			51	将来のまちの姿	石川委員	政策分野2のタイトルは「消防・救急・救助」というタイトルだが、将来のまちの姿や成果指標には「消防」しか記載されておらず、意味が狭くなっているように感じるので、「救急・救助」も記載したほうがよい。	修正	「迅速で的確な消防・救急・救助体制が備わったまち」に修正。
17			52	施策2	高澤委員	「火災予防の促進」では、福祉施設だけでなく、一般企業も含めた広い記載にできないか。	修正	「社会福祉事業者や企業等の施設における防火管理体制マニュアルに基づく～」に文言を修正。
18				施策3	海野委員	ドローンの活用について記載できないか。	参考	ドローンの活用については、課題が多く研究中であるため、現時点での明記は難しいと考えている。
19					高澤委員	救急・救助活動について、民間の「応急手当普及員」を記載して、民間の力を活用するという記載にはどうか。	参考	「応急手当普及員」は、主に事業所の従業員を対象とした普通救命講習を実施しており、年1回消防本部が認定講習を実施しているが、資格は3年ごとに更新が必要である。このため、普及員の増加は難しいのが現状である。このことから、市民の方々に救急現場での救命活動を行っていただき、救命の連鎖の円滑化を図るためには、より多くの市民に普通救命講習を受けていただくことが重要と考えている。

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容	
20	基本目標1	3 市民安全	53	グラフ	遠藤委員	特殊詐欺発生件数のグラフはどういう意図で掲載したのか。	参考	R2の統計数字が誤っていたため修正。依然として被害件数、被害額ともに横ばいのため、引き続き防犯対策を推進する必要がある。	
21				現状と課題1	水野委員 芹澤委員	防犯のところで「子供や女性や高齢者が」という表現を使っているが、外国人や成人男性も被害に遭うかもしれないため、もう少し幅広い表現をしてはどうか。	修正	「日常生活の中で、特殊詐欺や空き巣、車上ねらいなどの犯罪に遭う可能性はすべての市民にあるため～」との文言に修正。	
22			54	施策1	高澤委員	子供の安全についてもう少し記載することができないか。	修正	「不審者情報のメール配信や防犯パトロール、防犯講座を通じ、市民や事業者、学校等との協働による～」と修正。	
23					海野委員	覚醒剤について「市民大会や街頭啓発」に加えてプラスアルファの意気込みがあるような文章にできないか。	参考	統計資料によると検挙件数のうち再犯が多いとのことである。インターネットの普及により薬物の入手が容易になっているという背景もあり、教育委員会では小学6年生から薬学教室を実施している。市としては警察や医師会等と連携を図りながら啓発を実施しており、文章の修正はしないが、今後の取組の参考とさせていただく。	
24					海野委員	交通安全対策の推進について、グラフにあるように飲酒運転事故が多いので「飲酒運転防止意識の向上」などの言葉を明確に入れて、飲酒運転事故を絶対に減らすという意気込みを出してはどうか。	修正	「交通安全推進団体や警察等と連携し、飲酒運転防止意識の向上など交通事故防止の街頭啓発を実施します。」と修正。	
25					施策2	水野委員	「交通安全対策の推進」で高校生の自転車マナーについて記載しているが、外国人の自転車マナーについても記載してはどうか。	修正	「交通安全教室や高校生等の自転車マナー街頭指導～」とし、高校生以外の方も含めた表現に修正。
26						水野委員	SDGsの関係もあり、自転車活用を推進しているので、自転車についてはきめ細かに記載した方がよいのではないか。	参考	他の取組とのバランスもあるため、きめ細かな取組は、現在策定中で、関連計画である「自転車活用推進計画」において記載していく。

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容	
27	基本目標1	4 市民活躍	55	現状と課題1	水野委員	市民は既に様々な分野で活動されているので、そういった部分も文章として書いた方がよいのではないか。	参考	ここでは「地域コミュニティの活性化」を課題として捉え、地区まちづくり活動の支援を主な施策として記載している。コミュニティ内では様々な団体が連携・協力して課題解決に向け様々な活動を行っている。	
28					水野委員	地域コミュニティの枠を越えて市民活動をしている分野が多くあるので、もう少し違う表現があるとよいのではないか。	参考		コミュニティの枠を越えた市民協働と呼ばれる分野については、地域コミュニティだけでなく、様々な分野に横断的に関わるため、前期基本計画の第3部「総合計画の推進にあたって」の中に位置付けた「多様な主体との協働」において記載している。
29				56	施策1	片澤委員	「地区まちづくり活動の推進」のところで、「生涯学習」がSDGsの中で該当するのではないか。	参考	生涯学習については、「基本目標2・政策分野4 社会教育」において記載している。
30					施策2	水野委員	文章の中で「男女共同参画」という言葉を使うときには、「ジェンダー平等」という言葉と合わせて記載した方がよい。	修正	市では「ジェンダー平等の理念」を踏まえ、「男女共同参画」を推進している。このため、基本方針の2において、「ジェンダー平等の理念を踏まえ、」との文言を追記し、施策を進めていきたい。
31						水野委員	「セクシュアル・マイノリティ」についての説明があってもよいのではないか。	修正	ページ下部に注を入れ、内容について説明する。
32					片澤委員	「富士市パートナーシップ宣誓制度」についての説明があってもよいのではないか。	修正	ページ下部に注を入れ、内容について説明する。	
33					施策3	石川委員	「多文化共生を担う人材の育成発掘」について、わかりやすい表現にしてはどうか。	修正	ご意見を踏まえ、「やさしい日本語の普及啓発や日本語学習支援、日本語ボランティア養成などの取組により、日本人・外国人相互のコミュニケーション能力の向上や、多文化共生を担う人材の発掘・育成を図ります。」に修正。
34						水野委員	吉原高校の国際科や青年海外協力隊経験者がいるので、表現を少し変えてはどうか。	修正	

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容
35	基本目標7	1 市街地形成	97	グラフ	高澤委員	「住宅ストックの経年変化」のグラフがあるが、「住宅ストック」という言葉は一般的ではないのではないか。	修正	現状と課題の3での記述に関連する「空き家戸数と空き家率」のグラフに差し替え。
36				施策1	石川委員	土地の埋立てや盛土について記述があるが、現状と課題に記載されている内容から読み取ることができず唐突に感じるがいかがか。	修正	ご指摘を踏まえ、現状と課題の1に、「安心して暮らせる環境の確保を確保する」という文言を追記。
37			98	施策2	海野委員	「広域の玄関口にふさわしい」という表現について、「めざす都市像」では、「富士山とともに」という表現を用いており、「富士山の玄関口」という表現にしたらどうか。	参考	「富士山の玄関口」という表現の場合、観光の色合いが強くなってしまふことから、都市基盤整備について記載した本施策では、「広域の玄関口」という表現のままとする。
38					水野委員	市民の方が自主的に行っている活動もこの施策に繋がっているものと考えられるため、そうした活動を応援するような記載があるとよい。	修正	ソフト施策については、基本目標5・政策分野2「商業・流通・サービス産業」の施策1「まちなかのにぎわい創出支援」に記載されているが、ハードとソフトの両施策を両輪で進めていくことから、「官民連携によるソフト施策を充実させ」という文言を追記。また、「既存ストックの改変により」という文章について、ストックという言葉がわかりづらいため、「公共用地の有効活用等により」という文言に修正。
39		2 交通・道路	100	施策1	櫻井委員	「公共交通サービスの提供します。」は、「公共交通サービスを提供します。」ではないか。	修正	ご指摘のとおり修正。
40				施策2	水野委員	自転車のマナーも問題になることもあり、こうした点について配慮する記載が必要ではないか。	修正 (基本目標1)	自転車の運転マナーについては、基本目標1・政策分野3「市民安全」に位置付けており、記載を一部修正。(No.25参照)

No.	基本目標	政策分野	冊子該当ページ	項目	委員名	意見・提案事項	検討結果	対応内容
41	基本目標7	3 景観・公園・住宅	101	現状と課題1 (グラフ)	海野委員	「富士山の景観を活かした美しい都市づくりに関する市民の満足度が低い」とあるが、このバックデータをグラフとして示すべき。	修正	ご意見を踏まえ、「市民一人当たりの都市公園面積」のグラフを、「富士山の景観を活かした美しい都市づくりができていると思う市民の割合」のグラフへ差し替え。
42			102	施策3	水野委員	PPP/PFIの用語について、注釈が必要ではないか。	修正	PFI事業等を検討している取組は他の基本目標の取組にもあるが、PPPやPFI等の手法まで記載していないことから、本施策においても、PPPやPFIの用語は記載しないこととし、「民間活力を活かした」のみの表記に留めておく。